

まゆかへ

まゆかは とてもやさしかったね

小さい子のめんどうを見たり

遊んであげたりするのが好きだったよね

おばあさんと買い物に行ったときには

お菓子は必ず2個買って来て

「これはお兄ちゃんのね。」

って ぼくに1つくれたよね

まゆかは がんばりやさんで

負けずぎらいだったよね

幼稚園のころ 鼓笛隊のキーボード練習を

家で何回も何回もしていたね

1年生のときのマラソン大会は

1位をとったね

2年生のときは3位だったけれど

まゆかがにこにこでメダルをもらったとき

ぼくは とてもうれしかったよ

学校の図書カードには

借りた本の名前がいっぱい書いてあって

こんなに読んでいたんだと思って

びっくりしたよ

ぼくとまゆかはいつもいっしょだったね

遊んでいて

まゆかがふざけて投げたペットボトルが

ぼくのおでこに当たってしまったことがあった

よね

ぼくのおでこの血を見て

まゆかが目にいっぱい涙をためて

「だいじょうぶ。」

って 心配してくれたね

「だいじょうぶだよ。」

って言っても

何回も

「ごめんね。」

って 言っていたね

いつまでもいつまでも

ぼくのそばをはなれなかったね

今でも おでこに傷が残っているよ

ぼくのおでこの傷を

まゆかがちっちゃい手でさわって

ふざけることも

けんかをすることも

もうできないんだね

とてもさびしいよ

まゆかはいつも

「兄ちゃん、兄ちゃん。」

と ぼくをよんでいたよね

まゆかの

「兄ちゃん」と呼ぶ声を

もう一度聞きたいよ

7月9日は まゆかの誕生日だから

みんなで誕生会をしたんだ

まゆかの好きなチョコレートケーキだよ

まゆかもケーキ食べてくれたかな

まゆかは ぼくの夢の中に出て来てくれたね

「兄ちゃん 前のことは考えなくて

明日のことを考えたほうがいいよ。」

って

何だかむずかしいことを言っていたよね

はっきりと覚えているんだ

これからも

夢の中でもいいから遊びに来てね

いつでもいいから遊びに来てね

ぼくはいつまでも

まゆかの兄ちゃんだからね

ぼくは野球をやっているから応援してね

まゆかのやりたかったこと

まゆかの分もがんばっていくからね

空から見ててね

ありがとう

まゆか

ありがとう

(作文宮城60号 特別編「あの子どもたち」より)

